

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 地 理 総 合	単位数：3単位
教科書：新地理総合(帝国書院)		
学習書：有・無	入門書：有・無	補助教材：有・無
試験：2回	報告課題：全9回	最低面接時間数 3時間

1 学習の到達目標

○社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。

2 科目の特色

- 持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。
- グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する。
- 地図や地理情報システムなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点

知識・技能	現代世界の地域的特色に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめているか。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明や議論しようとしているか。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしているか。

②評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
- 「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名 (指導内容)	提出期間
第1回	地図と地理情報システム 結び付きを深める現代社会 地図問題	4.30-5.20
第2回	世界の地形と人々の生活 地図問題	6.5-6.13
第3回	世界の気候と人々の生活 オセアニア 東南アジア 地図問題	6.30-7.8
第4回	世界の言語・宗教と人々の生活 中央・西アジア 北アフリカ インド 地図問題	7.24-8.1
第5回	歴史的背景と人々の生活 ラテンアメリカ サハラ以南のアフリカ ロシア 地図問題	9.7-9.16
第6回	世界の産業と人々の生活 アメリカ合衆国 東アジア ヨーロッパ 地図問題	10.7-10.16
第7回	複雑に絡み合う地球的課題 地球環境問題 資源・エネルギー問題 地図問題	11.7-11.16
第8回	人口問題 食料問題 都市・居住問題 地図問題	12.7.12.17
第9回	自然環境と防災 生活圏の調査と地域の展望 地図問題	1.6-1.15
中間試験	出題範囲と要点は通教YUHO第2号参照	
終末試験	出題範囲と要点は通教YUHO第3号参照	

5 学習のすすめかた

- 教科書、解説をよく読み、地図帳を活用して学習に臨みましょう。
- 面接に出席する時は、事前にレポート(報告課題)に取り組んでから出席すると理解が深まるでしょう。
- 疑問はそのままにせず、報告課題の質問感想欄を利用したり面接で質問しましょう。

令和7年度 通信制課程	北海道有朋高等学校 シラバス	【科 目】 地 理 探 究	単位数：3単位
教科書：	新詳 地理探究(帝国書院)		
学習書：	有・無	入門書：	有・無
試験：	2回	報告課題：	全9回
		最低面接時間数	3時間

1 学習の到達目標

○社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。

2 科目の特色

- 地理的な諸事象を、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光、貿易、人口、村落・都市、民族・宗教、生活文化などの項目別に取り上げ、空間的な傾向や規則性、関連する課題の要因などを系統地理的に考察する。
- 多様な事象を項目ごとに整理して考察したり、特徴ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察したり、類似的または対照的な性格の二つの地域・国を比較して考察する。
- 日本の国土を主な対象地域として、地理的な諸課題の解決の方向性や、将来の国土の在り方を構想する。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点

知識・技能	現代世界の地域的特色に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめているか。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明や議論しようとしているか。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしているか。

②評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
- 「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名 (指導内容)	提出期間
第1回	地形 気候 地図問題	4.30 - 5.20
第2回	日本の自然環境 地球環境問題 地図問題	6.5 - 6.13
第3回	農林水産業 食料問題 エネルギー・鉱産資源 地図問題	6.30 - 7.8
第4回	資源・エネルギー問題 工業 第3次産業 地図問題	7.24 - 8.1
第5回	交通・通信 観光 貿易と経済圏 地図問題	9.7 - 9.16
第6回	人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題 地図問題	10.7 - 10.16
第7回	衣食住 民族・宗教と民族問題 国家の領域と領土問題 地図問題	11.7 - 11.16
第8回	地域区分 中国 韓国 ASEAN 諸国 インド 西アジアと中央アジア 地図問題	12.7 - 12.17
第9回	北アフリカとサハラ以南のアフリカ EU 諸国 ロシア アメリカ合衆国 ラテンアメリカ オーストラリアとニュージーランド 将来の国土の在り方 持続可能な日本の国土像の探究 地図問題	1.6 - 1.15
中間試験	出題範囲と要点は通教YUHO第2号参照	
終末試験	出題範囲と要点は通教YUHO第3号参照	

5 学習のすすめかた

- 教科書をよく読み、地図帳を活用して学習に臨みましょう。
- 面接に出席する時は、事前にレポート(報告課題)に取り組んでから出席すると理解が深まるでしょう。
- 疑問はそのままにせず、報告課題の質問感想欄を利用したり面接で質問しましょう。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 歴史総合	単位数： 単位 3 単位
教科書：新選 歴史総合 東京書籍		
学習書： (有) ・ 無	入門書： 有 ・ (無)	補助教材： 有 ・ (無)
試験： 筆記2回	報告課題： 全 9 回	最低面接時間数 3 時間

1 学習の到達目標

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付ける。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察する力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

2 科目の特色

- 近現代史を中心に、日本史と世界史を融合して学びます。
- 民主的・平和的な国家社会の一員としての自覚と資質を育成します。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

（1）評価の観点

知識・技能	歴史に関する基礎的・基本的な知識と見識を身につけているか。 歴史資料の読み解きに関する基本的な技能を身につけているか。
思考・判断・表現	教科書の問いについて思考し判断したことを試験に文章で表現できたか。
主体的に学習に取り組む態度	歴史に関する諸問題に関心を持ち、意欲的に報告課題に取り組んだか。

（2）評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
- 「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名（指導内容）	提出期間
第1回	紀年法・歴史と私たち・歴史の特質と資料 近代化への問い・結び付く世界と日本の開国（1）	4.27 - 5.16
第2回	結び付く世界と日本の開国（2）	6. 2 - 6.10
第3回	国民国家と明治維新（1）	6. 27 - 7.5
第4回	国民国家と明治維新（2）・近代化と現代的な諸課題	7.20 - 7.28
第5回	国際秩序の変化や大衆化への問い・第一次世界大戦と大衆社会	9. 3 - 9.11
第6回	経済危機と第二次世界大戦（1）	10. 3 - 10.12
第7回	経済危機と第二次世界大戦（2） 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	11.4 - 11.12
第8回	グローバル化への問い・冷戦と世界経済	12. 4 - 12.14
第9回	世界秩序の変容と日本・現代的な諸課題の形成と展望	1.6 - 1.15
中間試験	1回目から3回目までのレポート内容	
終末試験	4回目から6回目までのレポート内容	

5 学習のすすめかた

- (1) 通信教育では「自学自習」が基本です。学習に向かう時間を確保しましょう。
- (2) 最初に報告課題（レポート）の問題を見てから、教科書を読んでいます。
- (3) 教科書で確認しながら、レポートの問題に取り組みます。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 日本史探究	単位数：3単位
教科書：日本史探究（東京書籍）		
学習書： (有) ・ 無	入門書： 有 ・ (無)	補助教材： 有 ・ (無)
試験：実技0回 筆記2回	報告課題： 全9回	最低面接時間数 3時間

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

2 科目の特色

- ①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する。
- ②我が国の歴史の展開に関わる諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する。
- ③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点

知識・技能	現代世界の地域的特色と日本の歴史の展開に関して理解しているとともに調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめているか。
思考・判断・表現	歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり社会に見られる課題の解決に向けて構想したり考察、構想したことを効果的に説明や議論しようとしているか。
主体的に学習に取り組む態度	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしているか。

②評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名（指導内容）	提出期間
第1回	先史・古代の日本と東アジア	4.27 - 5.16
第2回	中世の日本と世界①	6.2 - 6.10
第3回	中世の日本と世界②	6.27 - 7.5
第4回	近世の日本と世界①	7.20 - 7.28
第5回	近世の日本と世界②	9.3 - 9.11
第6回	近現代の地域・日本と世界①	10.3 - 10.12
第7回	近現代の地域・日本と世界②	11.4 - 11.12
第8回	近現代の地域・日本と世界③	12.4 - 12.14
第9回	近現代の地域・日本と世界④	1.6 - 1.15
中間試験	出題範囲と要点は通教YUHO第2号参照	
終末試験	出題範囲と要点は通教YUHO第3号参照	

5 学習のすすめかた

- ①教科書をよく読みながら学習に臨みましょう。
- ②事前にレポート（報告課題）に取り組んでから面接に出席すると理解が深まるでしょう。
- ③疑問はそのままにせず、レポートの質問感想欄を利用したり、面接で質問しましょう。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス		【科目】 世界史探究
単位数：3単位	教科書：世界史探究（東京書籍）	学習書・補助教材：あり
試験：2回	報告課題：9回（9枚）	最低面接時間数：3時間

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

2 科目の特色

- ①「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。
- ②事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点（評価は次の3つの観点から行います）

知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象の意味や意義、特色などを、現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

②評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名 （ 指 導 内 容 ）	提出期間
第 1 回	世界史へのまなざし、古代文明の出現、西アジアと地中海周辺	4. 30－ 5. 20
第 2 回	南アジア、東南アジア、東アジアと中央ユーラシア	6. 5－ 6. 13
第 3 回	イスラーム世界の拡大と繁栄、中世ヨーロッパ、アフリカ・オセアニア・古アメリカ	6. 30－ 7. 8
第 4 回	中華世界の変容とモンゴル帝国、インド洋海域世界の発展と東南アジア、大交易時代と世界の一体化	7. 24－ 8. 1
第 5 回	ユーラシア諸帝国の繁栄、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	9. 7－ 9. 16
第 6 回	国民国家と近代社会の形成、世界市場の形成とアジア諸国の変容	10. 7－10. 16
第 7 回	アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容	11. 7－11. 16
第 8 回	国際協調体制の動揺と第二次世界大戦、第二次世界大戦と戦後の東アジア	12. 7－12. 17
第 9 回	冷戦の世界化と国際制度、冷戦の変容・終結と経済のグローバル化、21世紀の地球的課題と人類社会	1. 6－ 1. 15
中間・終末試験	出題範囲と要点は『通教YUHO 第2号（中間試験）／第3号（終末試験）』を参照	

5 学習のすすめかた

- ①1回の学習量が多いので報告課題の作成には時間がかかります。早めに取り組みましょう。
- ②教科書、学習書、報告課題の解説などをよく読んで、しっかり勉強してから報告課題に取り組みましょう。報告課題はすべて解答してから提出してください。
- ③解答は誤字・脱字に気をつけて丁寧に記入してください。特に、漢字は正確に書きましょう。
- ④面接は事前に報告課題に取り組んでから出席し、わからないことがあれば質問しましょう。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 公 共	単位数：2単位
教科書：公共(東京書籍株式会社)		
学習書： ⑦ ・ 無	入門書： 有 ・ ⑧	補助教材： 有 ・ ⑨
試験：実技0回 筆記2回	報告課題： 全 6 回	最低面接時間数 2 時間

1 学習の到達目標

「公共」は、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などに関わる諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標に学習します。

2 科目の特色

現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成することなどについて考察します。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点

知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

②評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名（指導内容）	提出期間
第1回	青年期・自己形成・社会への参画・伝統文化・倫理	5月 1日～5月21日
第2回	民主主義・立憲主義・日本国憲法・基本的人権	6月16日～6月25日
第3回	民主政治・地方自治・国会・内閣・政治参加と選挙	7月20日～7月28日
第4回	法と社会規範・市民生活と法・司法のしくみ	9月17日～9月26日
第5回	現代の経済・市場経済・国民所得と経済成長・金融の働き	10月29日～11月 7日
第6回	財政・社会保障・労働者の権利・国際社会・平和主義と冷戦	12月12日～12月22日
中間試験	通教YUHO 第2号を参照	
終末試験	通教YUHO 第3号を参照	

5 学習のすすめかた

- まず、報告課題(レポート)の問題に目を通してください。問題に関係する教科書の単元を探し当て、その部分をじっくり読み、解答します。教科書の本文だけでなく、図やグラフ、説明にもきちんと目を通しましょう。
- 「質問感想欄」を活用してください。学習を振り返ることで、知識として定着し、今後の学習に役立つはずです。
- 1回あたりの学習範囲が広いので、学習時間の確保に努めましょう。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科目】 倫理	単位数：2単位
教科書：倫理（東京書籍）		
学習書：(有) ・ 無	入門書：有 ・ (無)	補助教材：有 ・ (無)
試験：実技 回 筆記 2 回	報告課題：全 6 回	最低面接時間数 2 時間

1 学習の到達目標

- (1) 古代から現代までの思想を学び、現在ある多様なものの見方・考え方がどのようにして形成されてきたかを理解する。
- (2) 現代を生きる私たちが、自己や自己をとりまく社会・世界について、自ら問い考えていくための資質を養う。

2 科目の特色

- (1) 古今東西の哲学と宗教を中心とした思想について、大筋を学びます。私たちは、日常的に考え、生活するなかで、様々な思想とかかわっています。そのことについて、具体的な事例を通して学びます。
- (2) 思想とは、言葉によって正確に考えてきたことの累積です。思想を学ぶために、用いられる言葉の意味や用法を整理し理解することを第一にこころがけます。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

① 評価の観点

知識・技能	倫理に関する基礎的・基本的な知識と見識を身につけているか
思考・判断・表現	自己や社会の課題を発見し、広い視野に立って正しく考察できるか
主体的に学習に取り組む態度	自己や社会の諸事象に課題意識を持ち、意欲的に探求できるか

② 評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
- 「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名（指導内容）	提出期間
第1回	第1編現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 第1章人間の心のあり方、第2章さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ（1～2）	5. 2－5. 22
第2回	第2章さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ（3～8）	6. 18－6. 27
第3回	第3章さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ（1～3）	7. 23－7. 31
第4回	第3章さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ（4～7）	9. 19－9. 28
第5回	第4章国際社会に生きる日本人としての自覚（1～6）	10. 31－11. 9
第6回	第4章国際社会に生きる日本人としての自覚（7）、第2編現代の諸課題と倫理	12. 13－12. 23
中間試験	出題範囲と要点は通教 YUHO 第2号を参照してください	
終末試験	出題範囲と要点は通教 YUHO 第3号を参照してください	

5 学習のすすめかた

- (1) 「教科書」・「学習書」をよく読んで学習をすすめましょう。
- (2) 面接には、事前にレポート（報告課題）に取り組んでから出席すると理解しやすいでしょう。
※面接に出席する時は、必ず「教科書」・「報告課題」・「解説」を持参してください。
- (3) 返戻後のレポートは、必ず開封し、復習しましょう。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 政治・経済	単位数：2単位
教科書： 政治・経済（東京書籍）		
学習書： 有 ・ 無	入門書： 有 ・ 無	補助教材： 有 ・ 無
試験： 実技0回 筆記2回	報告課題： 全 6 回	最低面接時間数 2 時間

1 学習の到達目標

- ・広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。
- ・現代における政治、経済、国際関係について客観的に理解する。
- ・社会における諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養う。

2. 科目の特色

- ・日本及び、諸外国における政治、経済の歴史と現状を理解し、社会の変化に正しく対応する能力を身につけます。

3. 評価の観点・方法（年間の評価）

評価の観点（評価は次の3つの観点から行います。）

知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解している
思考・判断・表現	現代の諸課題について、合意形成や社会参画を視野に入れ、多面的・多角的に考察し、公正に判断、ている。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価方法

「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。

「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

レポート (回)	単元名（指導内容）	提出期間
第1回	民主政治の基本原理、法と民主主義、日本国憲法の基本原理	5/ 2 ～ 5/22
第2回	平和主義、日本の政治機構、地方自治、選挙と政治意識、世論と政治参加	6/18 ～ 6/27
第3回	経済主体と経済の循環、生産のしくみと企業、市場経済の機能と限界、国民所得と経済成長	7/23 ～ 7/31
第4回	日本経済の発展、日本経済の現状、公害と環境保全	9/19 ～ 9/28
第5回	農業・食料問題、消費者問題、社会保障と福祉	10/31 ～ 11/ 9
第6回	戦後国際関係の展開と日本、中国の台頭	12/13 ～ 12/23
中間試験	出題範囲と要点、通教YUHO第2号参照	
終末試験	出題範囲と要点、通教YUHO第3号参照	

5 学習のすすめかた

教科書が基本になります。しっかりと単元を一読して学習を進めましょう。

報告課題は丁寧に、漢字のところは漢字で書き、空欄がないようしっかりと解答しましょう。

学習した内容について自らの考えを持つことが大事です。

レポートの感想欄には学習を通して考えたことなどを書くようにしましょう。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 地 理 総 合(連携生)	単位数：2単位
教科書： 新地理総合(帝国書院)		
学習書： 有・無	入門書： 有・無	補助教材： 有・無
試験： 2回	報告課題： 全 6 回	最低面接時間数 2 時間

1 学習の到達目標

○社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。

2 科目の特色

- 持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。
- グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する。
- 地図や地理情報システムなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点

知識・技能	現代世界の地域的特色に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめているか。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明や議論しようとしているか。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしているか。

②評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
- 「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名 (指導内容)	提出期間
第1回	地図と地理情報システム 結び付きを深める現代社会 地図問題	4.27-5.16
第2回	世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活 オセアニア 東南アジア 地図問題	6.11-6.20
第3回	世界の言語・宗教と人々の生活 中央・西アジア 北アフリカ インド 歴史的背景と人々の生活 ラテンアメリカ サハラ以南のアフリカ ロシア 地図問題	7.11-7.20
第4回	世界の産業と人々の生活 アメリカ合衆国 東アジア ヨーロッパ 複雑に絡み合う地球的課題 地球環境問題 資源・エネルギー問題 地図問題	9.3-9.11
第5回	人口問題 食料問題 都市・居住問題 地図問題	10.31-11.9
第6回	自然環境と防災 生活圏の調査と地域の展望 地図問題	12.9-12.18
中間試験	出題範囲と要点は通教YUHO第2号参照	
終末試験	出題範囲と要点は通教YUHO第3号参照	

5 学習のすすめかた

- 教科書をよく読み、地図帳を活用して学習に臨みましょう。
- 面接に出席する時は、事前にレポート(報告課題)に取り組んでから出席すると理解が深まるでしょう。
- 疑問はそのままにせず、報告課題の質問感想欄を利用したり面接で質問しましょう。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 連携 歴史総合	単位数： 単位 2
教科書： 新選 歴史総合 東京書籍		
学習書： (有) ・ 無	入門書： 有 ・ (無)	補助教材： 有 ・ (無)
試験： 筆記 2 回	報告課題： 全 6 回	最低面接時間数 2 時間

1 学習の到達目標

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付ける。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察する力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

2 科目の特色

- 近現代史を中心に、日本史と世界史を融合して学びます。
- 民主的・平和的な国家社会の一員としての自覚と資質を育成します。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

（1）評価の観点

知識・技能	歴史に関する基礎的・基本的な知識と見識を身につけているか。 歴史資料の読み解きに関する基本的な技能を身につけているか。
思考・判断・表現	教科書の問いについて思考し判断したことを試験に文章で表現できたか。
主体的に学習に取り組む態度	歴史に関する諸問題に関心をもち、意欲的に報告課題に取り組んだか。

（2）評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
- 「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名（指導内容）	提出期間
第1回	紀年法・歴史と私たち・歴史の特質と資料 近代化への問い・結び付く世界と日本の開国	4.27 - 5.16
第2回	国民国家と明治維新・近代化と現代的な諸課題	6.11 - 6.20
第3回	国際秩序の変化や大衆化への問い・第一次世界大戦と大衆社会	7.11 - 7.20
第4回	経済危機と第二次世界大戦・国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	9.3 - 9.11
第5回	グローバル化への問い・冷戦と世界経済	10.31. - 11.9
第6回	世界秩序の変容と日本・現代的な諸課題の形成と展望	12.9 - 12.18
中間試験	1回目から3回目までのレポート内容	
終末試験	4回目から6回目までのレポート内容	

5 学習のすすめかた

- (1) 通信教育では「自学自習」が基本です。学習に向かう時間を確保しましょう。
- (2) 最初に報告課題（レポート）の問題を見てから、教科書を読んでいます。
- (3) 教科書で確認しながら、レポートの問題に取り組みます。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 公 共 (連 携)	単位数：2単位
教科書：公共(東京書籍株式会社)		
学習書： ⑦ ・ 無	入門書： 有 ・ ⑧	補助教材： 有 ・ ⑨
試験：実技0回 筆記2回	報告課題： 全 6 回	最低面接時間数 2 時間

1 学習の到達目標

「公共」は、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などに関わる諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標に学習します。

2 科目の特色

現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成することなどについて考察します。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点

知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

②評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名 (指導内容)	提出期間
第1回	青年期・自己形成・社会への参画・伝統文化・倫理	4月27日～5月16日
第2回	民主主義・立憲主義・日本国憲法・基本的人権	6月11日～6月20日
第3回	民主政治・地方自治・国会・内閣・政治参加と選挙	7月11日～7月20日
第4回	法と社会規範・市民生活と法・司法のしくみ	9月3日～9月11日
第5回	現代の経済・市場経済・国民所得と経済成長・金融の働き	10月31日～11月9日
第6回	財政・社会保障・労働者の権利・国際社会・平和主義と冷戦	12月9日～12月18日
中間試験	通教YUHO第2号を参照	
終末試験	通教YUHO第3号を参照	

5 学習のすすめかた

- まず、報告課題(レポート)の問題に目を通してください。問題に関係する教科書の単元を探し当て、その部分をじっくり読み、解答します。教科書の本文だけでなく、図やグラフ、説明にもきちんと目を通しましょう。
○「質問感想欄」を活用してください。学習を振り返ることで、知識として定着し、今後の学習に役立つはずです。
○1回あたりの学習範囲が広いので、学習時間の確保に努めましょう。